金沢の能楽は、加賀藩前田家が武家の式楽として保護、育成を図り、庶民にも広く奨励したことから、「加賀宝生」として独自の発展を遂げ、このまちは「空から謡が降ってくる」とまでいわれるようになりました。

明治維新を迎え、武士階級の衰退により一旦は衰えますが、加賀宝生「中興の祖」といわれる佐野吉之助の物心両面にわたる尽力で広く市民の間に広がり、今日の隆盛を迎えることとなりました。

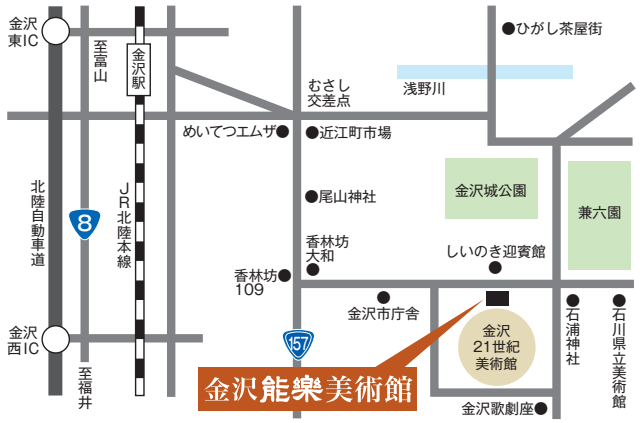
金沢能楽美術館は、この加賀宝生に伝わる貴重な能面や能装束を収蔵展示する施設として、かつて金澤能楽堂のあったゆかりの地「広坂」に建設されました。

「加賀宝生」は、金沢の無形文化財に指定され、「能楽」はユネスコの無形文化遺産に登録されています。

金沢能楽美術館は、このような貴重な美術品と伝統芸能を次世代へ伝え、伝統を現代、さらに未来へとつなげると同時に、「世代を超え、親しみあふれる美術館」を目指しています。

無形文化遺産
能楽の世界へ
ようこそ

■MAP



■交通案内〈バス〉　金沢駅東口バスターミナル7～11番乗場からバスにて「香林坊（アトリオ前）」下車徒歩10分

■休館日　月曜日（休日の場合はその翌平日）、年末年始（※展示替などで休館することがあります）

■開館時間　10:00～18:00（入館は17:30まで）

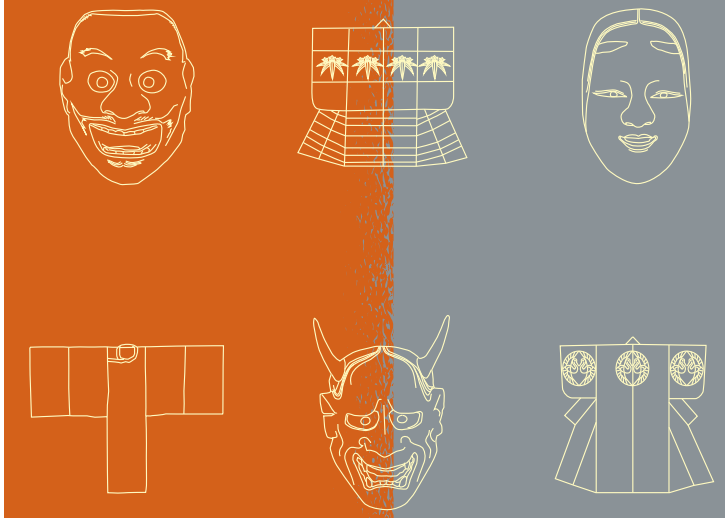
■観覧料
■一般・大学生 ―300円　■団体（20名様以上）―250円
■65歳以上 ――200円　■高校生以下 ――――― 無料

■21世紀美術館共通券（コレクション展のみ）
■一般 ―――510円　■大学生・65歳以上―460円

金沢能楽美術館

〒920-0962
金沢市広坂1丁目2番25号
TEL:076-220-2790
FAX:076-220-2791
http://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp

併設　クラフト広坂　TEL.076-265-3320
加賀藩時代から伝承されてきた希少伝統工芸の専門アンテナショップ。



金沢能楽美術館
館内のご案内

Kanazawa Noh Museum

導入展示室

能舞台を再現。演者の立ち位置と役割を確認できます。

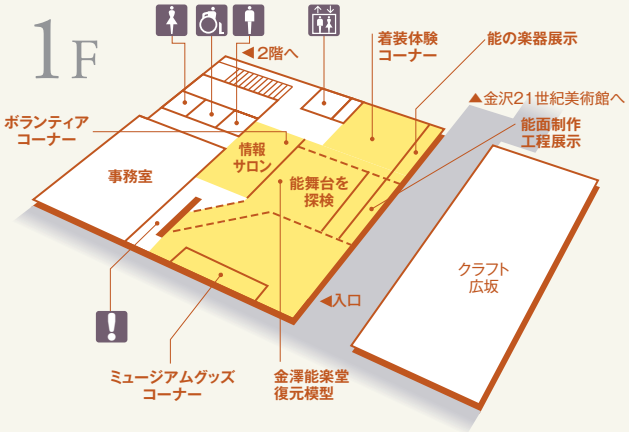
- 能舞台と同じ大きさの空間を示すスペースとなっており、映像とともに体験できます。
- 金澤能楽堂を模型で再現し、能舞台の構造や舞台裏などを紹介しています。
- 体験用の能面・能装束を展示しており、着装体験や記念撮影ができます。
- 能面がつくられる工程を道具とともに紹介しています。
- 能の基礎知識や加賀宝生の歴史などをパソコンなどで紹介しています。
- エントランスでは、地元の伝統工芸によるミュージアムグッズを展示販売しています。

ミュージアムグッズ

能楽堂模型

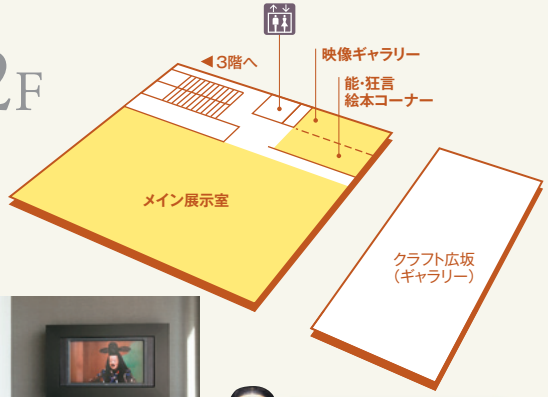
着装体験コーナー

気軽にふれる能楽の世界



メイン展示室

能楽が育んできた美の世界



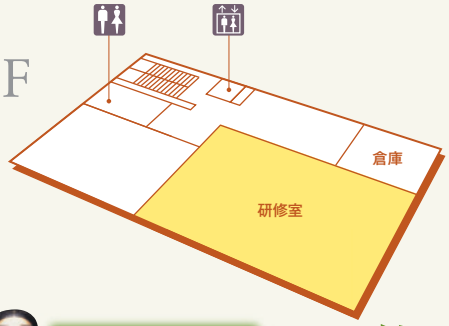
映像ギャラリー

能・狂言絵本コーナー

メイン展示室

長い歴史と風土の中で育まれてきた金沢の至宝が一堂に展示されています。

- 加賀宝生に伝わる貴重な能装束や能面を展示するほか、特別展では全国の能楽コレクションの名品を紹介しています。
- 映像ギャラリーでは、加賀宝生の歴史や、金沢の伝統芸能などの映像が楽しめます。
- 能・狂言絵本コーナーでは、親子でゆっくりくつろげるスペースとなっています。



能楽の魅力を体感

加賀宝生子ども塾・能楽の講座などに活用されています

研修室（要予約）

体験・学習に使用できます。

- 能装束や能面などの着装体験ができます。
- 伝統芸能の学習や研修などに貸し出しもしています。

研修室

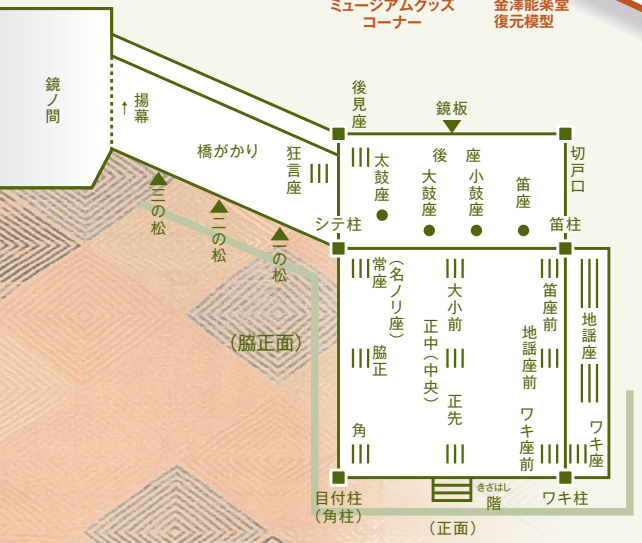
■研修室使用料（使用時間9:00～22:00）

午前	9:00～正午	4,110円
午後	13:00～17:00	7,200円
夜間	18:00～22:00	8,220円
全日	9:00～22:00	15,420円

※使用料金には、備え付けのプロジェクター、マイク等の使用料も含みます。
※飲食は禁止となっております。

能舞台

能は通常、屋根つきの三間四方（約6メートル四方）の本舞台の上で演じられます。屋根を支える四隅の柱は、シテの目印の役割もはたしています。正面から向かって右側に地謡座、奥に囃子方や後見が座る後座が付きます。後座のうしろの羽目板は鏡板と呼ばれ、描かれている老松に神が影向（ようごう）するともいわれています。正面から見て左側、後座に接続して斜め奥へと橋がかりが延びており、揚幕で隔てられたその奥が鏡の間です。橋がかりは、本舞台への単なる通路ではなく、境界を越える装置でもあります。



1Fフロア